

報 廣 ま っ だ い

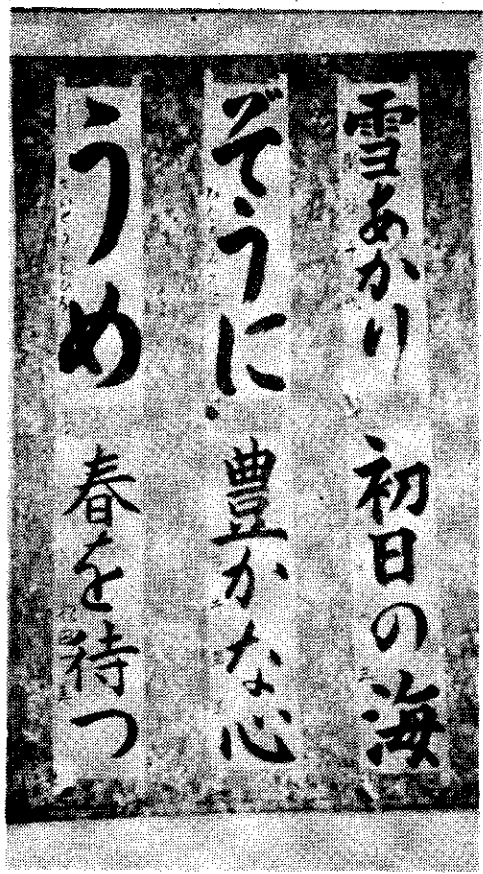
町内書初展覧会終る

〓 今年は小学一年生からも 〓

恒例の町の書初展覧会は今年も一月十五、十六日の両日にわたり町公民館と町教育振興会の共催で町公民館を会場に開催されました。年々その内容が充実してきていると言われるこの展覧会は、従来小学校四年生以上の作品のみを対象としていましたが、今年是一年生より審査該当とし、各学校より学年生徒、児童数の五％を選出してもらい、入賞作品といたしました。出品された作品は、いづれも選びに選ばれたものばかりで優劣を決めがたく、審査も真剣そのものでした。

展覧された作品数は小学校一〇九点、中学校四七点、一般者三四点の多きに達し、ホールをうめつくした作品に、観覧者は感じ入るという状況でした。

出品された作品の中より学年一点を優秀賞とし、特別展示したわけですが、その栄に輝く人たちは次の通りです。



- ◎小学校の部
- | | | |
|----|----------|-----|
| 一年 | さいとうよしひろ | 北山小 |
| 二年 | ひぐちみえこ | 松代小 |
| 三年 | 関谷 千絵 | " |
| 四年 | 牧田 一美 | 峠 小 |
| 五年 | 菅井 里美 | 室野小 |
| 六年 | 池田 一三 | 北山小 |

- ◎中学校の部
- | | | |
|----|-------|------|
| 一年 | 菅井 洋子 | 奴奈川中 |
| 二年 | 佐藤 正悟 | " |
| 三年 | 小堺 準一 | " |

尚展覧会終了後、各本校を巡回し、それぞれの学校で展示してもらったわけですが、各学校においても児童・生徒の書初展を行ないPTAの皆さんにも見ていただく様に、年々その内容をたかめていく作品に、改めて関心を持っていただく様にされました。

審査に当たった先生方は、くちをそろえて、上越地区へ出品してもそろって上位であることを強調されていました。

おたんじょう
おめでと
おくやみ
(死亡)

一月中

- () 内は保護者
- | | | |
|-----|--------|----|
| 直也 | (高橋嵩一) | 松代 |
| 豊二 | (市川利正) | " |
| 堅二 | (小堺長平) | 儀明 |
| 三男 | (井上利平) | 寺田 |
| 美佐子 | (柳 新次) | 犬伏 |
| 益栄 | (武田栄一) | 名平 |
| 勇一 | (柳 親雄) | 犬伏 |
| 良彦 | (樋口昭一) | 松代 |
| 正芳 | (矢沢茂正) | 峠 |
| 秀二 | (南雲 堅) | 福島 |
| 由加子 | (山岸幸男) | 室野 |
| 直子 | (米持敏夫) | " |
- () 内は戸主
- | | | |
|-------|-------|----|
| 志賀 トメ | (茂) | 千年 |
| 柳 マツ | (仙太郎) | 芋島 |
| 富沢 クニ | (恭松) | 松代 |
| 片桐 シゲ | (豊寿) | 清水 |
| 小山 コト | (弘) | 小貫 |
| 田卷 カト | (成三郎) | 峠 |
| 佐藤 由紀 | (栄治) | 室野 |

昭和45年2月15日発行
第137号
東頸城郡松代町公民館
館長 富沢清次
電話 松代1番
印刷 松代印刷所

昭和44年度中学卒業生の進学率は五五・六〇%

一時は戦後のベビーブームで多くの卒業生を送り出した町内各中学校も、その後年々その数を減じ本年度卒業生は二四一名となり昨年よりも四七名も少なくなっている現状です。

さてその卒業生の動向は各方面からいろいろな意味で注目されているところですが、卒業式を間近かにひかえた各中学校にお願いしまとめてみました。

これによりますと進学率は五五・六〇%となり昨年の六〇・七六%よりやや減ということですが、これは奴奈川中学を除き、いずれも昨年度より下廻った%で、受験競争の一面がこゝにも表われている様です。

又就職希望をみますと四一・五%でその大半が県外就職というのも土地柄と世代の要求にもよるものですが、県内就職希望者のほとんどが各種学校(職業訓練所、理・美容学校、看護婦養成所)などの状況からみて、一般の就職希望者は殆んど県外就職であるといってもよいようです。

入家希望者は遂に二ケタを割り町内全部を合せても、わずかに七名ということで、農村人口の流出のはげしさをこゝでも知らされます。尚進路希望は次の通りです。

昭和44年度中学卒業生進路希望

年度	卒業生		進学		就職		入家	
	者数	%	者数	%	者数	%	者数	%
昭和44年	241	55.60	125	51.87	100	41.5	73	30.3
昭和43年	366	59.55	234	63.93	153	41.8	102	27.6
昭和42年	388	58.25	235	60.57	154	39.7	118	30.4
昭和41年	444	57.90	259	58.33	192	43.2	159	35.8
昭和40年	544	55.33	315	57.90	234	43.0	218	39.9
昭和39年	616	55.36	343	55.68	254	41.23	218	35.39
昭和38年	716	55.17	399	55.73	314	43.73	299	41.76
昭和37年	816	55.15	453	55.51	354	43.39	318	39.09
昭和36年	916	55.13	513	55.99	414	45.09	388	42.36
昭和35年	1016	55.11	570	55.99	474	46.65	458	45.08
昭和34年	1116	55.11	627	55.99	534	47.84	518	46.41
昭和33年	1216	55.11	684	55.99	594	48.84	578	47.53
昭和32年	1316	55.11	741	55.99	654	49.69	638	48.48
昭和31年	1416	55.11	798	55.99	714	50.43	708	50.00
昭和30年	1516	55.11	855	55.99	774	51.05	778	51.32
昭和29年	1616	55.11	912	55.99	834	51.61	838	51.86
昭和28年	1716	55.11	969	55.99	894	52.17	898	52.33
昭和27年	1816	55.11	1026	55.99	954	52.73	958	52.80
昭和26年	1916	55.11	1083	55.99	1014	52.92	1018	52.87
昭和25年	2016	55.11	1140	55.99	1074	53.27	1078	53.47
昭和24年	2116	55.11	1197	55.99	1134	53.59	1138	53.78
昭和23年	2216	55.11	1254	55.99	1194	53.91	1198	54.06
昭和22年	2316	55.11	1311	55.99	1254	54.23	1258	54.32
昭和21年	2416	55.11	1368	55.99	1314	54.55	1318	54.58
昭和20年	2516	55.11	1425	55.99	1374	54.87	1378	54.84
昭和19年	2616	55.11	1482	55.99	1434	55.19	1438	55.10
昭和18年	2716	55.11	1539	55.99	1494	55.51	1498	55.36
昭和17年	2816	55.11	1596	55.99	1554	55.83	1558	55.62
昭和16年	2916	55.11	1653	55.99	1614	56.15	1618	55.88
昭和15年	3016	55.11	1710	55.99	1674	56.47	1678	56.14
昭和14年	3116	55.11	1767	55.99	1734	56.79	1738	56.40
昭和13年	3216	55.11	1824	55.99	1794	57.11	1798	56.66
昭和12年	3316	55.11	1881	55.99	1854	57.43	1858	56.92
昭和11年	3416	55.11	1938	55.99	1914	57.75	1918	57.18
昭和10年	3516	55.11	2000	55.99	1974	58.07	1978	57.44
昭和9年	3616	55.11	2061	55.99	2034	58.39	2038	57.70
昭和8年	3716	55.11	2122	55.99	2094	58.71	2098	57.96
昭和7年	3816	55.11	2183	55.99	2154	59.03	2158	58.22
昭和6年	3916	55.11	2244	55.99	2214	59.35	2218	58.48
昭和5年	4016	55.11	2305	55.99	2274	59.67	2278	58.74
昭和4年	4116	55.11	2366	55.99	2334	60.00	2338	59.00
昭和3年	4216	55.11	2427	55.99	2394	60.32	2398	59.26
昭和2年	4316	55.11	2488	55.99	2454	60.64	2458	59.52
昭和1年	4416	55.11	2549	55.99	2514	60.96	2518	59.78
昭和0年	4516	55.11	2610	55.99	2574	61.28	2578	60.04

これを昭和四十年以降とくらべてみますと、次の表に示めされた通りです。

名物大相撲千秋楽行事終る

町内各地の土俵入りは盛会

テレビや雑誌にまで紹介され、健全な冬期豪雪の中での大きなレクリエーションとしてすでに名物となっている、町内各場所大相撲が十五日間の熱戦を終え、一月二十五日千秋楽をむかえました。

この日、町内は小雪がちらつきそれでも時たま太陽が顔を見せるといった天候でしたが、夜に入り雪もあがり、ふれ太鼓の音につれて足早やに会場へ急ぐ見物者の姿が見られました。

各地区とも土俵入りがにぎやかに行なわれ、室野場所では婦人会の相撲甚句も行なわれるなど大変なにぎわいでした。以下各場所の成績をお知らせします。

◇松代場所 総数 三七三名

- 横綱 謙信山義昭(銀行) 若清瀬 守(役場)
- 大関 大松山正泰(小学) 桂高飛止也(中学)
- 関脇 東錦 利隆(町) 飛龍 健司(役場)
- 小結 真山 寛次(洪海) 毘 公鷹(中学)

◇室野場所 総数 二〇〇名

- 横綱 尾の道昌和(局) 北越 松吉(川西)
- 大関 北国真知子(川西) 大木山正義(中学)
- 関脇 西浦山壮介(川西) 太陽 澄子(小学)
- 小結 大浜 由一(南町) 飛魚 昌弘(下向)

◇蒲生場所 総数 一〇五名

- 横綱 赤根山 光 富士ノ山正夫
- 大関 池田川昇一 谷風 定治
- 関脇 細美山ミツ子 越の海安太郎
- 小結 福ノ川 弘 市ノ川市松

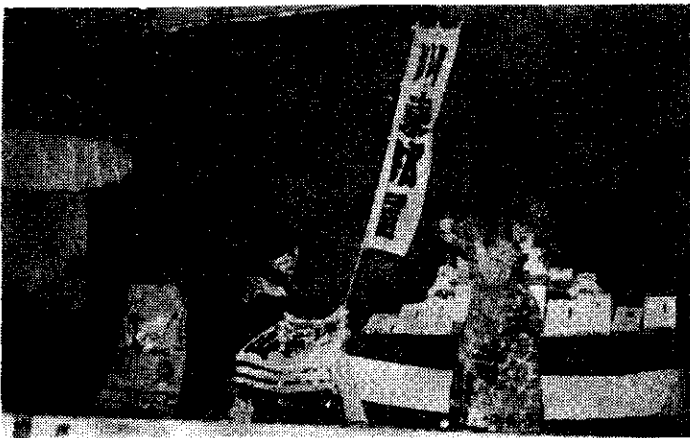
◇伊沢部屋 総数 三三名

- 横綱 店の花 幸子
- 大関 勝々山 条吉
- 関脇 大島山久三夫
- 小結 新緑山 元

尚この他にも菅刈、蓬平等がそれぞれ場所をもち盛大なる千秋楽をむかえたとのこと。



(室野の土俵入り風景)



スキー・シーズン今やたけなわ

白銀に競う 技と力

冬期の大切な体育活動として、体力作りとレクリエーションを兼ね、町内各地で盛んにスキーが行なわれていきます。中でも二月の上旬はスキー大会があちこちに開催され、まさにスキーシーズン酣の感があります。

先ず二月一日松代いなりがけスキー場において恒例の町内スキー駅伝大会が開催され、従来の駅伝コースが無雪道路になった為、こゝに会場を移して行なわれたものですが、折からの強風にわざわいされてか応援者も少なく、関係者を心配させました。その中で出場十三チームの選手達は元氣一ぱいにコースを力走し、好仕合を展開し、追いつ抜かれつの接戦が行なわれました。当日の成績は

①役場体育部 A チーム ②町商工会 チーム ③前田屋チーム ④高校職員チーム ⑤東北電力チーム(以下略) ということでした。尚主催した松代町スキー協会では、スキー場の整備を急ピッチで行い、同じスキー場で行なわれる町内スキー大会にそなえるべく連日、にぎわうゲレンデに出動しています。

又七日の日には同じく稲荷がけスキー場で町内スキー大会が開催され、最高頂に達したスキー熱をいやが上にも盛上げました。

この日はすっかり晴れ上り、最高のコンディションのもと、午前九時より大廻転、小・中男女の距離等、文字通り力と技を充分に発揮

し、会場をうめつくした観衆の熱気ある応援に応えるべく終日、好レースが展開されました。当日の成績は次の通りです。

●距離の部 (一位のみ)

〔男〕小五山賀正一(松代) 小六笠原敏彦(室野) 中一市川稔(松代) 中二柳新一郎(松代) 中三五十嵐守(松代)

〔女〕小五市川美代子(菅刈) 樋口亮子(松代) 五十嵐千恵子(松代) 富沢かなめ(松代) 小六富沢利枝(松代) 関谷加代子(松代)

山岸咲子(蒲生) 本山総子(松代) 関谷千枝子(松代) 中一池田照代(山平) 石口恵子(松代) 中沢祥子(山平) 中二山賀輝美(松代)

関谷寿賀子(松代) 中三関谷節子(松代) 市川八重子(松代)

●大廻転の部 (一位のみ)

小五関谷政光(松代) 小六関谷悟(松代) 中一柳俊之(松代) 中二池田三勇四(山平) 中三桜沢隆(山平)

●廻転の部 (一位のみ)

〔男〕小五関谷政光(松代) 小六樋口信幸(松代) 中一相沢十一郎(松代) 中二鈴木栄郎(松代) 中三小島和明(孟地)

〔女〕中一高橋澄枝(山平) 中二中村妙子(清水) 中三鈴木由起子(松代)

青年鈴木武夫(病院) 第一壮年 関谷松雄(商工会) 第二壮年小堺悟(山平)

●リレーの部 (一位のみ)

小(男)松代 A 小(女)松代 A 中(男)松代 C 中(女)松代 A 一般町商工会



灯 なんとかならないもの だろうか

犬の放し飼い

町内のこゝかしこで、よく放し飼いされている犬を見る。ことに狭くなった雪道で、通行人にむかって吠えかけている犬を何度も見た。よく見ると野犬ではなく立派な鑑札を持ったものばかりの様である。

幸いまだ犬に噛み付かれたという人を今年には知らないが、先般ある部落で犬に吠えられ立往生し、

!! 5年のかけ金で3万円 今すぐ加入しましょう !!

国民年金ができたときに、任意加入されなかった明治39年4月2日から明治44年4月1日までに生れた皆さんに、できるだけ早く拠出制の老令年金をうけていただくため、もう一度加入の機会が得られる、いわゆる5年年金制度ができました。

▲加入できる人は………
明治39年4月2日から明治44年4月1日の間に生れた人に限りです。ただし次のような人は加入できません。

- ① 前に国民年金に加入したことのある人。
- ② 会社や工場などに勤め、厚生年金、船員保険、共済組合などに加入されている人。
- ③ 厚生年金、船員保険、共済組合などから老令年金や退職年金を受けている人や、受ける資格のある人。

▲保険料は月額七五〇円………
ただし、保険料の免除はありません。

▲加入期間は………
満5年間保険料を納めなければなりません。

▲加入の手続は………
昭和45年1月1日から6月30日までです。7月以降になると加入できません。

▲一年半でかけ金もどる………
一ヶ月七五〇円——五年のかけ金で四万五千元、受給年金額は三万円です。すからちようど一年半でもとがとれます。

か言われぬ。毎日の忙しさに犬のことを忘れてしまうこともあるのではなからうか。

だからといってそれで良いということは言えないだろう、責任を持つてつないでおく事が大切なのではなからうか。

道路上の犬を見かけるたびに何とかならないものだろうかと思つて登校時、下校時の際は事故を未然に防ぐ意味あいからも、犬をつないでおいてもらうことを切望する。

(松代 K)

所得税の確定申告について

(高田税務署より)

昭和四十四年分の確定申告は、二月十六日から三月十六日までです。確定申告は、一年間の所得と税額を計算して、申告書を税務署に提出する大切な手続きです。

申告と納税の相談は三月に入りますと税務署の窓口が混雑しますので出来るだけ早めにお出かけ下さい。又、税務署から指定された相談日がある場合にはぜひその日においで下さい。相談においでになるときは、扶養控除、生命保険控除、社会保険控除等の欄を必ず記載のうえおいで下さい。この欄が書いてないと受付があと順位になることがあります。

ないと、無申告加算税や延滞税がかかり、不利な取扱いを受けます。納め過ぎの源泉所得税を返してもらおう申告は、一月一日から税務署で受付けていますので、早めに申告し、早めに還付を受けて下さい。

所得税の申告書を提出した人は、事業税、住民税の申告書を提出する必要があります。所得税の申告書を提出しない人で、事業税または、住民税の申告をしなければならぬ人はそれぞれの申告書を三月十六日までに提出しなければなりません。確定申告書の用紙のない人や

書き方などについておわかりにならないときは、いつでも町役場や税務署でご相談下さい。

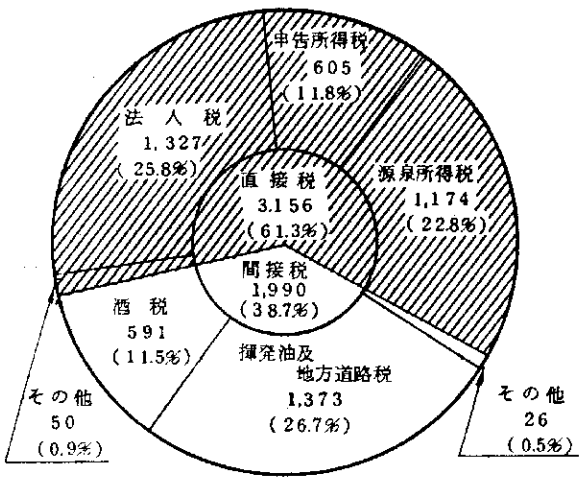
◎「税の相談日」をご利用下さい

税金は私たちの生活と密接な関係があります。たとえば税法の解釈のわからないとき、記帳方法の疑問のとき、土地や家屋などの財産を売ったり、相続、贈与などのうかと考えます。

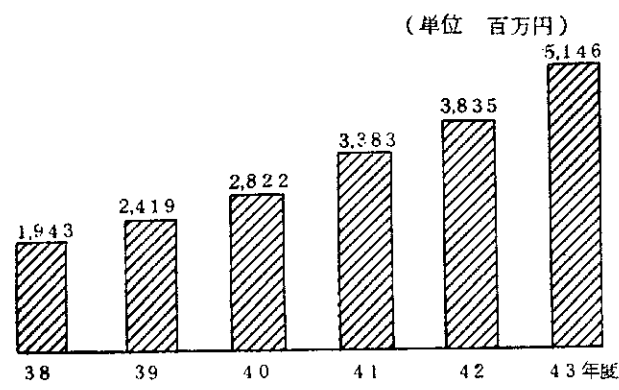
こんなときに気軽においでになってご相談できるように、税務署では毎月五・十五・二十五日を「税の相談日」と定めてご相談に応じています。ご相談においでになった方のお名前は聞きたくないことになっていきますので、お気軽にこの日をご利用ください。

昭和43年度徴収決定済額 (上越地区) (単位 百万円)

高田税務署管内 総徴収決定済額 5,146百万円



年度別徴収決定済額 (単位 百万円)



お知らせ

贈与税の申告と納税について

贈与税の申告と納税は二月一日から三月十五日までですが、今年三月十五日は日曜日ですので十六日が申告と納期限です。贈与税は四十四年度中に家屋や土地、預貯金株式などの財産をも

らったり、親の土地や家屋を子供の名義にかえたりした場合、一年間にもらった財産の価額が四〇万円をこえた場合には、そのこえた部分にかゝる税金です。尚詳細は税務署資産税係におたづねください。(高田税務署)

お宅の電話の受話器は…アッはずれている

電話が入って便利になりました

が近頃、農集電話の各地で受話器をはずしておく家庭がふえて困っています。農集は、一戸がはずれていますとその集団全部が電話をかけられませんが、市外からかゝって来てもおつなぎすることが出来ません。折角便利になっても、これでは不便になってしまいます。お互いに困りますので、確実に受話器をおかけ下さい。

(松代郵便局)